

魚津市水循環遺産 ストーリー

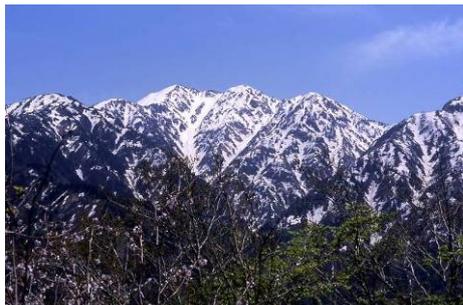


源流の山と水源の森

—「魚津の水循環」のはじまり—

！ポイント！

- ・ 片貝川の源流となる地域
- ・ 森を育てる水と、水を受け止める森



雪解けの毛勝山



毛勝三山…魚津市南東の最奥部に並び、毛勝山(2414m)、釜谷山(2415m)、猫又山(2378m)の3つの山。釜谷山は魚津市の最高峰。

僧ヶ岳…標高は1855mと高くはないが、地質や植生の変化に富む。山肌の残雪が描く雪絵で知られる。

片貝川の源流は、毛勝三山や僧ヶ岳など高さ1000～2400mの山岳に囲まれた地域です。その領域は、地形が急峻で人による利用がほとんどないため、ほぼ自然のままの状態の森林に覆われています。

魚津市の山岳地帯は、日本海側特有の気候により1年を通して降水量が豊富で、特に冬季の多雪環境は、地域の自然を特徴づけています。深い積雪は、保温性と保湿性をもち、動植物の越冬を助けています。そして春から夏にかけては、豊富な雪どけ水となり、森を育てます。

森林は、雨や雪どけ水を受け止め、保水性に富む土壌を通してゆっくりと下流に送り出します。この作用によって、急激な水の流出による土砂災害を防ぐとともに、安定した水源の維持に役立っています。また、森林の土壌を通過してきた水は、森で作られた栄養分を川や海へ運び、そこに生きる動植物を育てています。

水が森を育て、森も水を育てているのです。



森から水が流れ出る

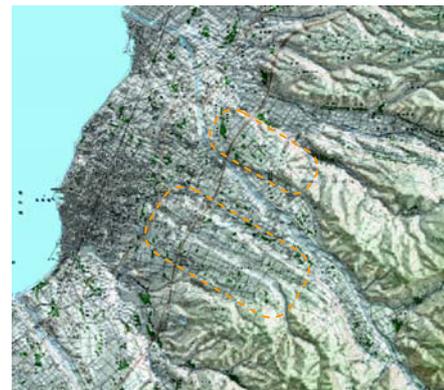
- ・ 駐車場 南又谷駐車場（徒歩移動）
- ・ トイレ 南又谷駐車場にあり
- ・ 近くの「魚津の水循環」スポット
洞杉、蛇石（龍石）、杉ノ尾の岩屋、砂防堰堤、片貝南又発電所

片貝川流域の河岸段丘 かがんだんきゅう

—過去の變動を示す地形—

！ポイント！

- ・ 片貝川に沿って広がる急な斜面と平坦な上部からなる階段状の台地
- ・ 河岸段丘が示す大地や気候の變動



立体加工した片貝川下流域の地形図 河岸段丘

片貝川に沿うように急な斜面と上部は平坦面からなる台地状の地形がみられます。この地形は「河岸段丘」と呼ばれる地形です。上部の平坦面を段丘面、急な斜面を段丘崖とよびます。片貝川左岸側では石垣、大海寺新付近、右岸側では天神山や天神野新付近などが河岸段丘となっています。

片貝川流域の河岸段丘を作っているのは、現在の扇状地よりも前に扇状地をつくっていた砂や礫からなる堆積物です。古い時期の堆積物ほど上位の段丘に分布し、勾配が大きくなる特徴があります。

これらの河岸段丘の成因として、僧ヶ岳や毛勝三山が含まれる立山連峰の隆起と富山湾の沈降の大地の變動や、氷期・間氷期のような気候變動に伴う海水面や降水量の変化などによっておこった、土砂の堆積や片貝川の浸食の変化が考えられています。

片貝川流域の河岸段丘の存在は、魚津市周辺でも大地や気候の變動があったことを意味しています。



- ・ 駐車場 川沿いなどの他の交通の妨げにならない場所
※片貝川流域の利水関連施設付近からならどこでも見学可能
- ・ トイレ なし
- ・ 近くの「魚津の水循環」スポット
黒谷頭首工、片貝谷発電所、貝田新円筒分水、東山円筒分水、横枕浄水場、高円堂用水など

魚津のうまい水

—地下を流れるもうひとつの川—

！ポイント！

- ・ 魚津市の上水道は地下水 100%
- ・ 故池田弥三郎氏絶賛 「日本一うまい」との折り紙つき

魚津駅前広場に「うまい水」と名づけられた水飲み場があります。これは、国文学者の故池田弥三郎氏が、昭和 57 年の新春座談会で「こんなうまい水は日本のどこにもない。この水を全国に広く宣伝したら」との提言をうけて、造られたものです。故池田氏は、その著書「魚津だより」でも「越中の水・富山の水」と題し、水のおいしさを語っていらっしゃいます。

この水飲み場の水は、深さ 60m の井戸から汲みあげられた片貝川水系の地下水です。地下水は年間を通じて同じ温度を保ち、夏・冬おいしい水を飲むことができます。

同じ地下水は、魚津の上水道として使用されています。市内にある水源地のすべては地下水を 100% 使用し、それで全戸の水道をまかなっている公共水道は、国内でも珍しいことです。

また、地下水は、標高 800～1200m 付近から約 20 年の歳月を経て、魚津沖合い 200m で湧出しています。これが、海底湧水と呼ばれるものです。山や森のミネラルを多く含んだ淡水が年間約 5300 万 t 湧き出ており、富山湾の多種多様な水産資源の育成を支えています。

水道課では、平成 22 年度にボトルウォーター「魚津のうまい水」を製造し、水のおいしさを PR するとともに、価格に環境クレジットを付け、売上金の一部を環境保全活動に充てています。



- ・ 魚津の「水循環」スポット JR魚津駅前 「うまい水」水飲み場
- ・ 「魚津のうまい水」ボトルウォーター販売所
魚津市役所第2分庁舎水道課・海の駅蜃気楼・

魚津埋没林 うおづまいぼつりん

—地中に埋もれていた 2,000 年前の林—

！ポイント！

- ・ 約 2000 年前の原生林の痕跡
- ・ 魚津埋没林をつくりだした片貝川の水



水中展示館の埋没林樹根

魚津埋没林とは、今から約 2000 年前に魚津の海岸付近に広がっていたスギを主体とする原生林の跡です。2000 年程前は現在よりも気温が低く海面の位置も低かったため、魚津の海岸付近では現在の海面よりも低い位置にスギ中心の林が広がっていました。その後気候は温暖になり、海面の上昇に伴う地下水位の上昇の影響や、片貝川の氾濫で運ばれてきた土砂によって原生林は地中に埋没してしまいました。

魚津埋没林が埋まっていた場所は、ちょうど片貝川扇状地の扇端部にあたります。扇状地は主に浸透性の良い砂礫で出来ているため、扇頂部付近で水は地下に伏流し、扇端部で湧水する特徴があります。片貝川扇状地でもその特徴はみられ、扇頂部である黒谷頭首工あたりから河川水の伏流により表層の水が少なくなります。扇端部にあたる海岸付近の地域や海岸から約 200m 沖合までの海底では、至るところで湧水が湧き出しています。また、魚津埋没林が長い間土の中で保存されていたのは、扇端部の地中表層付近に帯水している地下水が関係していると考えられています。

魚津埋没林の埋没と保存には、片貝川の水の流れが深く関わっています。

- ・ 駐車場 魚津埋没林博物館 ※埋没林の見学には入館料が必要です
- ・ トイレ 魚津埋没林博物館にあり
- ・ 近くの「魚津の水循環」スポット
片貝川河口、てんこ水

富山湾の神秘

—蜃気楼—

！ポイント！

- ・ 蜃気楼のみえるまち 魚津
- ・ 海を豊かにする海底湧水

蜃気楼は、大気中の温度差（＝密度差）によって、光が屈折を起こし、遠方の風景などが伸びたり反転した虚像が現れる現象です。蜃気楼の現象として、現実の風景の上側に伸びたり反転した虚像が現れる上位蜃気楼と実際の風景の下側に現れる下位蜃気楼があります。魚津で「蜃気楼」といえば、上位蜃気楼を指します。別名、出現する時期をさし「春の蜃気楼」とも呼ばれ、ほかの地ではなかなか見ることのできない現象です。一方の下位蜃気楼は「冬の蜃気楼」と呼ばれ、通常アスファルト路面などで見られる「逃げ水」と同様の現象です。

蜃気楼が起きる原因として、富山湾に冷たい雪解け水が流れ込み、海上の大気が冷やされるという説が長らく語られてきましたが、近年は海上にある低温の空気の上に、陸地で暖められた空気が流れ込むのが主要な要因だと考えられるようになってきました。今後の研究での解明が待たれます。

また、富山湾の魚津沖合い 200m付近からは、年間約 5300 万 t もの淡水が絶えず海底から湧き出ています。この淡水は海底湧水といい、扇状地の上流で地下にしみこんだ水が、20 年ぐらいの年月をかけて湧き出しているものです。多くの栄養分を含んだ海底湧水は、富山湾の生態系を支え、「海底のオアシス」「栄養の泉」などと呼ばれています。一説では、富山の魚がおいしいのは、この海底湧水によるとも言われています。



- ・ 駐車場・トイレ 魚津埋没林博物館

砂防堰堤 さぼうえんてい

—大量の土砂の流出を防ぐ堤防—

！ポイント！

- ・ 片貝川上流域各所でみられる砂防堰堤
- ・ 急流河川における砂防堰堤の役割と必要性



三段の砂防堰堤

片貝川上流域では、各所に砂防堰堤（砂防ダム）がみられます。砂防堰堤の役割として期待されるのは、土砂の受け止め、流出土砂量の調整があります。また、土砂が堰堤の上流側にたまることで、河川の侵食力の低下、川岸や山すその崩壊の防止、河川勾配をゆるやかにするなど期待されています。

片貝川の上流域の山や大地は、今から約 2～3 億年前にできた花崗岩類や片麻岩類の岩石からできています。これらは古い岩石のため風化が進みもろくなっています。また、片貝川流域は年間降水量が多いため、降雨や雪崩などによってもろくなった山地の侵食が激しく、土砂生産量が多くなっている上、急流河川のため運搬する力も大きくなっています。そのため、土砂が大量に下流へ流れ出さないように砂防堰堤が整備されています。

それぞれの砂防堰堤は、地形などに応じて様々な形をしています。堰堤を片貝川の清流が流れ落ちる様子は迫力があります。



砂防堰堤

水量豊かな角川流域

—角川ダムとため池群—

！ポイント！

- ・ 地元資材を利用したロックフィルダム
- ・ 涸れることのないため池群

角川は、実延長 9520m と比較的小さい河川ですが、水量が豊富にあるうえ、河口付近が魚津市街地を流れているため、昔から洪水のたびに大きな被害を引き起こしていました。

その一方で、片貝川や早月川に比べ流れが緩やかなため、平野部では低湿地を形成し、昭和 30 年に米作り日本一を産んだ肥沃な土地を育み、また上流域の豊かな森は多様な植物や生物の生息を促しました。

しかし、昭和時代（1952・1964・1969 年）に続けて大きな洪水被害があり、水量調整と非常時の農業用水補給を目的に、鹿熊地区に「ロックフィル式」の角川ダムが築造されました。

ロックフィルダムとは、土や岩石を材料に盛り立てて作られるダムをいい、角川ダムで使用されている材料は、角川上流の安山岩を運搬したものです。また、ダム表面の張石は、早月川産出の大石を利用しており、角川ダムの特徴となっています。

また、片貝川と角川の間位置する坪野地区には、多数のため池があります。これらのため池は、築造年や水源が不明なものが多いのですが、昔から干ばつ時でも涸れたことがないといわれています。

ため池は、山間部の地形を利用して作られており、昨今の田園環境の変化によって減少しつつある希少生物の生息地となっています。



- ・ 駐車場 角川ダム 管理事務所前
- ・ 駐車場・トイレ ため池周辺は見学場所によって変化
- ・ 近くの「魚津の水循環」スポット
薬師の水、早月川

暮らしを支える農業用水

—頭首工・円筒分水槽・高円堂用水—

！ポイント！

- ・ 黒谷頭首工 清流がはえる整然と並んだ石版
- ・ 日本一美しいといわれる東山円筒分水槽

市内を流れる片貝川、早月川は急流河川のため、沿岸地域では豪雨時は水害、夏期には深刻な水不足に悩まされ、農地間での水争いが絶えませんでした。そのため、均等な水配分を行うため、水の取り入れ口を一つにする頭首工が作られました。なかでも黒谷頭首工は、昭和 13 年（1938 年）着工、戦争で一時中断の後昭和 30 年（1955 年）に完成し、透き通るような水を満々とたたえる姿は圧巻です。

頭首工から取水した農業用水は、片貝谷発電所の用水と合流したのち、片貝川左岸の貝田新で分流した一部がサイフォンで川底を横断し、右岸の東山で湧き出ています。東山の「円筒分水槽」では、下流の用水路の面積割を円周長で比例分水され、公平に配分しています。この方式は、富山県では魚津市で初めて採用されました。施工後 50 年以上経過した今でも、湧き上がる清流のダイナミックな風景は、数ある円筒分水槽の中でも日本一の美しさともいわれています。

市内の川沿いの地域では、暴れ川との戦いでしたが、高台では水がないため、なかなか土地の開発が進みませんでした。そこで、天神野台地を開墾するため、加賀藩が取り組んだのが、「高円堂用水」の工事です。慶安 2 年（1649 年）に着工し、その 2 年後に一応の完成を見ました。工事は、東山と天神山の間にあった高円堂谷を埋め、木製の樋をかけるというものでした。全てを人力で行う工事ははかどらず、人柱を捧げて工事の完成を祈願したとの伝承も伝わるほど困難であったようです。

今は、水路はコンクリート改修されていますが、当時の木製の樋のレプリカが一部設置されています。また、当時の石積みが斜面に残っています。



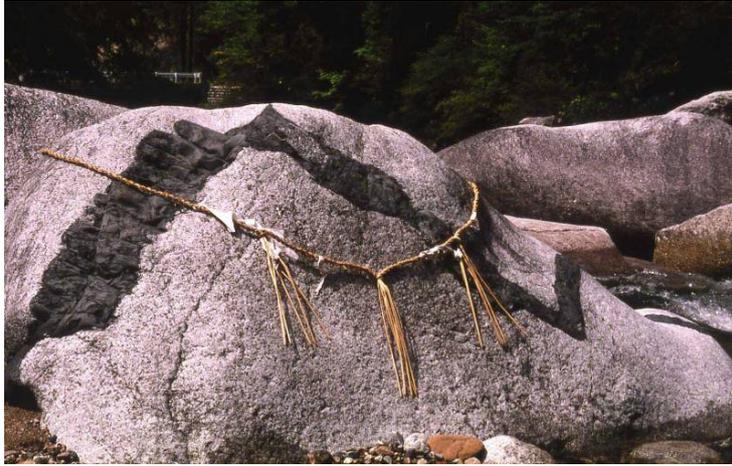
- ・ 近くの「魚津の水循環」スポット
片貝川・魚津歴史民俗博物館

蛇石（龍石） へびいし（りゅうせき）

—片貝川に豊富な水をもたらすと伝えられる石—

！ポイント！

- ・ 蛇がまきついているような模様をもつ石
- ・ 雨乞いの石として信仰されている石



蛇石
(龍石)

片貝川上流の南又谷の河原には、「蛇石（龍石）」と呼ばれている石があります。白い花崗岩かこうがんに入っている暗緑色の輝緑岩きりよくがんの岩脈が、まるで岩にまきつく蛇のように見えます。

この蛇石には、昔、狩人が巨岩を抱いた大蛇（龍）を発見し、不思議な力をもった金と銀の弾を撃ち込んだところ、大蛇は激しい雷鳴とともに石にからみついて死んでしまい、その恨みが洪水をおこしたという言い伝えがあります。今でも片貝川に洪水があればそのたたりと恐れられる一方で、この石をたたけば雷雨になると信じられており、夏期に水不足のおこりやすい片貝川に豊富な水をもたらす石として祭られています。蛇石が祭られている龍石祠では毎年5月中旬ごろに、片貝川の恩恵に感謝し発電事業や農林業の発展を願う、雨乞い祭りが行われています。

この蛇石と周辺の林道などでみられる岩石とは、比べてみるとかなり様子が違います。蛇石の花崗岩は現在の場所よりも上流の山地をつくっている岩石で、上流から片貝川の水によって現在の場所まで運ばれてきたと考えられます。周辺には蛇石以外にも巨石が多く転がっており、片貝川の水エネルギーの大きさを感じることができます。蛇石の伝説は、水の恵みをもたらす一方で、時折見せる片貝川の恐ろしさをあらわしているのかもしれませんが。

・ 駐車場 南又谷駐車場（徒歩移動、往復約 2.5km）

・ トイレ 南又谷駐車場にあり

・ 近くの「魚津の水循環」スポット

洞杉、杉ノ尾の岩屋、砂防堰堤、片貝南又発電所、水源の森

洞杉 どうすぎ

—片貝川流域の自然の象徴—

！ポイント！

- ・ 樹齢数百年を数えるスギ巨木群
- ・ 複雑な樹形と巨大な岩を抱え込む根っこ



↑ 群生する洞杉

← 最大とされる洞杉

「洞杉」は、片貝川上流、南又谷の標高500～700m付近に群生している、樹齢数百年を数えるスギの巨木です。洞杉は根元から数本の幹が上がっている株立と呼ばれる姿になっており、大きなものは株立になった幹周りの合計が20mを超えています。

巨木・古木であることもさることながら、洞杉の大きな特徴はその姿にあります。株立になったそれぞれの幹は、曲がったり交差したりしながら複雑な樹形を作っています。また、洞杉の生息地は巨大な岩が点在する斜面上で、洞杉の多くは巨大な岩を根元に抱え込むような形で生育しています。根っこで巨大な岩を抱え込み、数本の幹を伸ばしている姿はかなりの迫力があります。洞杉がこのような特異な姿をしている理由としては、地形地質や雪の多い気候など、自生地の環境の影響が考えられています。

「洞杉」の呼び名は、幹の内部が空洞であることに由来するとされています。巨木が群生する景観は壮大で、魚津の自然の象徴的な存在の一つになっています。



岩上のコケから芽生えたスギ

- ・ 駐車場 南又谷駐車場（徒歩移動、往復約5km）
- ・ トイレ 南又谷駐車場にあり
- ・ 近くの「魚津の水循環」スポット
蛇石（龍石）、杉ノ尾の岩屋、砂防堰堤、片貝南又発電所、水源の森

平沢の沌滝とトチノキ林、ふうけつ風穴

—山里の生活と結びついた森—

！ポイント！

- ・ 麓の集落を雪崩から守り、山のめぐみをもたらす森林
- ・ 滝と風穴が演出するふしぎな癒し空間



片貝川左岸沿いの平沢集落背後の山腹にはトチノキの林があり、その奥には優美な姿の沌滝と、冷風が吹き出すふしぎな風穴があります。

トチノキ林では、直径50cmを超える古木が多く見られます。この林は、麓の集落を雪崩から守る重要な役割を持っています。また、救荒食物となる“枳の実”や、薪、炭、生活道具などになる雑木の供給源として、かつては人の生活と密着した里山であったと考えられます。

沌滝は、落差約20m、大きく3段に分かれています。周辺の地形は、滝より上が緩やかで下が急になっています。この地形の違いは地層の違いによるものです。沌滝がある下部の急斜面は溶結凝灰岩ようけつぎょうかいがん、上部は砂岩からできています。溶結凝灰岩は熱い火山灰などが圧縮されてできた岩石で、沌滝周辺では縦方向に近い割れ目ができており、それが地形にも影響しています。一方、沌滝周辺の砂岩は地層の傾きが緩やかで、それが地形にも現れています。沌滝は砂岩のつくる緩やかな地形を流れてきた川の水が、溶結凝灰岩がつくる急斜面へと流れ落ちてできた滝といえます。

トチノキ林の上部にある風穴は、大きさは1mもありませんが、真夏でも10℃以下の冷蔵庫並みの冷風が吹き出しています。暑い日にトチノキ林に山仕事で入った人々のよい休憩場所だったそうです。



- ・ 駐車場 沌滝遊歩道入り口付近の林道に駐車スペースあり
- ・ トイレ 片貝山ノ守キャンプ場にあり

自然豊かな北アルプス北端の山

—僧ヶ岳—

！ポイント！

- ・ 僧ヶ岳
- ・ 自然度の高い森に囲まれたミズバショウ群生地

僧ヶ岳は、魚津市と黒部市にまたがり、北アルプス立山連峰の北端に位置します。標高は 1855mと急峻な北アルプス山岳地帯にあっては、緩やかな山容をもち、日本海に直接面しています。この地形が冬の季節風の影響を直接受ける要因となり、稜線や起伏を境として風上側は積雪が少なく、風下側は吹き溜まりとなって多量の雪が積もります。このような積雪の多寡が入り混じることが、さまざまな形を生む雪絵の元となっています。

僧ヶ岳は植生自然度が高く、標高 700～1600mに自生している日本における最高位分布のユキツバキや、仏ヶ平風衝植物群落、石灰岩植物群など学術的に貴重なものが多く存在します。

また、山の中腹には、池の尻の池と呼ばれている湿原があり、そこには「ミズバショウ」が群生しています。ミズバショウだけの群生地としては、県内最大規模を誇り、自然の姿を残した一帯は、県の自然環境保全地域特別地区に指定されています。池の尻の池は人が容易に訪れられない急斜面の谷の上に位置し、そのことが今日まで自然を保ってきた一つの要因となっています。

僧ヶ岳一帯は、近年の登山等の山岳レクリエーションのニーズの高まりに対し、安全かつ適正な利用を図るため、僧ヶ岳県立自然公園の指定を受けました。

貴重な自然環境、多様な生態系や優れた風景を保全しつつ、市民の健康や休養のための利用を考えていきたいと思えます。



- ・ 僧ヶ岳ビューポイント JR魚津駅前正面出口から望む僧ヶ岳

松倉城と魚津城を結ぶ川

—城を守る天然の堀—

！ポイント！

- ・ 松倉城の眼下を流れる角川
- ・ 「水噴きの龍」

魚津市では、たくさんの山城跡が確認されています。特に角川流域には、松倉城跡を始め北山城跡、坪野城跡、水尾城跡、升方城跡があります。さらに河口には、「魚津城の戦い」で有名な魚津城跡があります。

これらの城をつないでいたのが角川です。角川は、山からの物資や人を運ぶ重要な役割を果たすとともに、城の守りとして早月川とともに天然の堀として敵からの攻略を防いでいました。

また、角川上流には室町時代から江戸時代にかけて、加賀藩のドル箱といわれた松倉金山、虎谷金山、河原波金山がありました。戦国末期には松倉城下町の人口は約3万人いたとも伝えられ、大いに隆盛を誇っていました。

坪野城のあった坪野地区には、行基菩薩作の薬師如来のお告げによって発見されたと伝わり、古来から胃腸に効くといわれている「薬師の水」が湧き出ており、いまでも多くの方が水を汲みにおとずれています。

時代が移るにつれ、城の中心は平地の魚津城へと変わりました。それに従い、城下町も魚津城周辺へと移動し、寺院や武家屋敷などが街道沿いに広がりました。

江戸初期には魚津城代が、魚津城廃城後には魚津郡代が新川一円を統治し、経済文化の中心地として繁栄しました。

ただ、魚津町はたびたび火災に見舞われており、いまでもつたわる伝承として、桃原寺の「水噴きの龍」があります。

桃原寺の本堂正面にある欄間の龍は、しばしば欄間から飛び降りて、付近の泥田をさまよい人を驚かせ、龍が水を噴くと必ず火事があったとされていました。昭和10年（1935年）に龍が水を噴いたと噂が立ってから近所で火災があり、その後も騒ぎが起きたため、龍の目に5寸釘を打ち込み、棕櫚縄で縛り付けたとのこと。昭和18年（1943年）・31年（1956年）の大火でも桃原寺が焼けずに残ったのは龍のおかげといわれています。

- ・ 駐車場・トイレ 見学場所によって変化
- ・ 近くの「魚津の水循環」スポット
早月川

立山の雪し来らしも延槻の河

—歴史に残る清流—

！ポイント！

- ・ 万葉時代より知られる早月川
- ・ 急流暴れ川との戦い

剣岳に端を発する早月川は、平均勾配約 82.6 パーミルの国内有数の急流河川です。

剣岳からの雪解け水は清冽で、万葉集でも大伴家持が、早月川を馬で渡りながら、その豊かな水量に感嘆して歌った歌が残っています。それが、「立山の雪し来らしも 延槻の 河の渡り瀬 燈浸かすも」です。この歌の歌碑が、早月川河口にある魚津市総合公園内に設置されています。

このほかにも、早月川は堯恵法印や松尾芭蕉が旅の日記などにその名を残しています。

また、早月川は急流のため、ひとたび雨が降り水かさが増すと、大きな岩石をも流す大洪水を起こし、流域の住民を苦しめました。

いまでも当時の暴れ川の様子を表す地名として、「上中島」「下中島」があります。これは、早月川がひとたび洪水となると、角川との中間地帯は島のようなことになったことに由来するものです。

今では、川の上流に砂防堰堤や堤防が設けられ、災害に対する対策が進んでいます。



- ・ 駐車場・トイレ 魚津市総合公園
- ・ 近くの「魚津の水循環」スポット
魚津水族博物館

布施川と僧ヶ岳雪絵

—暮らしにいきる雪絵—

！ポイント！

- ・ 布施谷から望む慈母のごとくどっしり控える僧ヶ岳
- ・ 小川山千光寺に伝わる秘仏

布施川は、僧ヶ岳に端を発し、黒部市との境界を流れ、河口にて片貝川の本流に合流します。もともとは別の川でしたが、過去の度重なる片貝川の氾濫により、布施川の流路が奪われ、ひとつになったと考えられています。

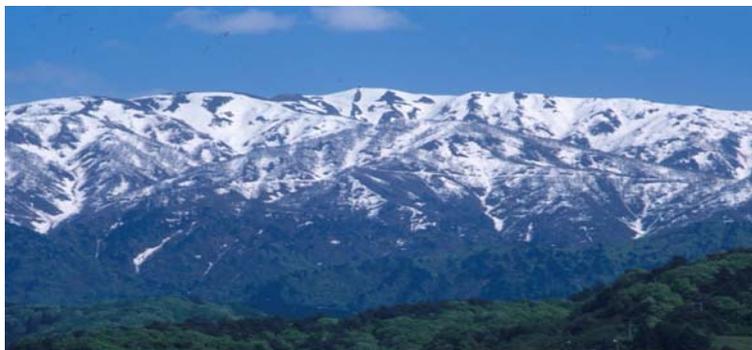
布施川沿岸は、肥えた土と穏やかな風物に恵まれ、早くから集落ができた土地です。その証ともいえる小川山千光寺は、奈良時代（746年）に開基され、千光寺のある小川寺地区は信仰の中心として大いに栄えたと伝わっています。

また、小川寺千光寺の千手観音は、平安時代（806年）に経田浦で漁師の網に掛かり、海中から引き上げられ、安置されたといわれています。33年ごとのご開帳には、漁師の末裔が経田から屋形舟で川を昇り、開扉の役を勤めたそうです。

布施川に豊かな水をもたらす僧ヶ岳は、古来仏ヶ岳、僧馬岳の名でも呼ばれた信仰の山であり、布施の谷に暮らす人々にとって、気象や季節の変化を教えてくれる大切な山として親しまれています。

「坊主が曇れば雨が降る」というように、僧ヶ岳に雲がかかれば、まず雨は免れないし、たとえ降っていても山が晴れば、まもなく雨は止むとのことです。

僧ヶ岳の初雪で冬の来るのを知り、雪解けで春を知る。特に僧ヶ岳の雪解けが進むにつれて、山肌に現れる虚無僧や猫、馬などの雪絵は、刻々と変化します。この雪絵は、布施の谷では、川の水量の目安や農耕時期の目安となると、今に伝わる布施谷節にも歌われているほどです。



- ・ 僧ヶ岳ビューポイント JR魚津駅前正面出口から望む僧ヶ岳
- ・ 小川寺千光寺 富山地鉄バス 小川寺停留所徒歩3分

米騒動とてんこ水

—鴨川—

！ポイント！

- ・ 鴨川べりに再現されたてんこ水
- ・ 米騒動発祥の地 旧十二銀行米倉

片貝川の黒谷頭首工から市内中心を流れる鴨川は、かつては神明川や鬼江川とも呼ばれ、魚津城の自然の堀としても利用されていました。

残念ながら魚津城跡は、今は大町小学校となっており、城やお堀も残ってはいません。

旧魚津町付近は、片貝川の地下水が行き渡っており、鴨川の川底からは透き通った清水が湧き出ていました。その清水を竹の樋で給水したのが「てんこ水」と呼ばれ、市民の生活飲料水として利用されていました。

この「てんこ水」は、当時の主婦の交流の場でもあり、大正時代に起きた全国的にも有名な「魚津の米騒動」も、この「てんこ水」での主婦たちの井戸端会議が始まりといわれています。日々の暮らしを話しあううちに、米問屋への運び出し中止の訴えにつながりました。

海岸線を走るしんきろうロード沿いには、旧十二銀行跡の米倉や米騒動発祥の記念碑、明治の新聞記者で社会問題研究家の横山源之助の碑が設置された大町海岸公園があり、潮風を感じながらウォーキングやサイクリングを楽しむことができます。

鴨川は、度重なる市街地での洪水被害防止のため、河川改修が行われ、河川の湧水は見られなくなりましたが、河口付近に作られた「餌指公園」のなかに「てんこ水」の仕組みが再現されています。



- ・ トイレ 餌指公園内
- ・ 近くの「魚津の水循環」スポット
角川・旧十二銀行米倉・埋没林博物館

片貝川扇状地 かたかいがわせんじょうち

—片貝川下流域の水循環の鍵をにぎる地形—

！ポイント！

- ・ 片貝川下流域にひろがる扇のような形の地形
- ・ 扇状地上にある魚津の街や田畑



←山側から見た片貝川扇状地

↓片貝川扇状地の海側からの鳥瞰図 ちようかんず



片貝川下流域では、黒谷付近を扇頂部とした扇状地が広がり、その扇端部は海岸付近まで達しています。

扇状地とは、山地から平坦な地形にさしかかる場所でできる地形です。大量の土砂を含む水流が、山間部を抜け平坦な地形に差し掛かると、運搬する力が急に弱くなるため、土砂を谷の出口付近に堆積させていきます。そして土砂がたまとその土地は高くなるため、洪水などをきっかけに低い土地のほうへ川の流れの向きを変えていきます。それを繰り返していくうちに、堆積物の分布が谷の出口を中心とする放射状になり、扇の形に似た地形が出来上がります。

片貝川扇状地は海岸まで達しているため、魚津市の市街地や田畑の多くは扇状地の緩やかな斜面上に分布します。そのため土地は海岸からすぐに緩やかに上っていき、海岸から2～3kmあたりで標高50mの高さになります。また、田畑などをみると、区画ごとに段差をつけて造成されていることがわかります。魚津市民は山側に行くことを「上る」、海側に行くことを「下る」と表現することからも、扇状地の地形の傾斜を身近に感じていることがうかがえます。

この片貝川扇状地は、片貝川下流域の水の動きに大きな影響を与えています。

- ・ 駐車場、トイレ 見学場所によって変化
※黒谷付近から海岸までの各地で扇状地地形やそれに関する魚津の水循環スポットが見学可能
- ・ 片貝川扇状地に関する「魚津の水循環」スポット
黒谷頭首工、片貝谷発電所、貝田新円筒分水、東山円筒分水、横枕浄水場、高円堂用水、河岸段丘、片貝川河口、魚津埋没林、てんこ水など